

さあ！シーズンイン

蔵王ゴルフ倶楽部代表取締役社長
武田 文雄氏



歴史ある蔵王ゴルフ倶楽部の経営を任されて3シーズン目を迎えようとしています。長年、プレーして下さって

いるクラブ会員をはじめ、県内外のゴルファーの方々に楽しんでいただくため、3月19日(土)のオープンに向けて現在、準備を進めています。

私自身の勉強も兼ねて、蔵王カントリークラブの歴史を紹介させていただきます。建設のきっかけは1958(昭和33)年8月下旬、山形ロータリークラブの例会での講話です。ゲストスピーカーとして米沢の浜田酒造濱田耕一氏が「カントリークラブとゴルフ」と題して、イギリス社交界や保土ヶ谷カントリークラブを例に語りました。

浜田酒造は全国に名だたる「沖正宗」で知られていました。時に耕一氏はわずか32歳。「山形県内ではまだゴルファーはほとんどいないから、話をしてもボロが出ないだろう」と始めたが、目の前には鈴木吉助山形交通社長、長谷川吉三郎山形銀行顧問、三浦弥太郎同頭取、矢野善助山形丸魚社長(第14代山形商工会議所会頭)、原田孝一ハッピー工業社長、五十嵐太右衛門八文字屋社長等々、山

形の錚々(そうそう)たる経済人。冷房設備がなかったこともあるが、黒板にコースの絵を貼り出し、ゴルフ道具一式をテーブルの上に並べ、汗だくになって紹介したということです。

濱田氏が驚いたのはスピーチを30分で終えた直後のこと。「山形にもゴルフ場がほしいものだ」と鈴木氏が呼び掛け、その場で基本構想づくりを任された。あれよあれよという間に予想もしない発展。決断の速さと起業家精神に深い感銘を受けた。濱田氏は早速、5万分の1の地図から3カ所くらい候補地を選び、藪を分け入って実地踏査し、さらに自ら操縦桿を握って航空写真を撮り現地を選んだ、と回想しています。こうして翌年6月、白洲次郎東北電力会長、安孫子藤吉県知事、大久保傳蔵山形市長を顧問に蔵王カントリークラブ、蔵王ゴルフ株式会社が相次いで設立され、昭和36年9月に9ホールが、2年後の10月に東北では最初の18ホールがオープンしました。

こうした経緯を知るにつけ半世紀を超えるゴルフ場の経営を任され身の引き締まる思いです。就任と同時に営業力強化を最重点に取り組んで来ました。ターゲットは仙台です。車でわずか1時間足らずであるにもかかわらず、「山一つ越えなければならない」という遠距離感を何とか解消したい、一度プレーをしたらコースの良さを分かっていただけはず、と仙台方面のゴルフ練習場、スポーツショップを集中的に回っています。

それと女性や若い人々、初心者に足を運んでもらう努力が必要です。そのためには多くの声に耳を傾け安心・安全・快適なゴルフ場に向けて、施設のリニューアルに努めたいと考えています。さらに、新たな広報対策として山形商工会議所を通じて小規模事業者持続化補助金の交付を受け、ドローンを使ってゴルフ場と、蔵王周辺の四季の美しさを空撮したDVDを作成しました。ぜひホームページをご覧ください。

昭和34年の第一次クラブ会員募集案内パンフレットは、「…観光事業を県勢発展の一環とする山形県でもゴルフ場建設の気運がようやく高まり、蔵王山麓に好適地を見つけたのであります」と謳っております。私自身、山形市役所において長年商工観光行政に携わって来ました。ゴルフ場建設は観光産業発展の一躍を担う、という先人の思いを胸に、蔵王カントリークラブが山形の自然、食文化、歴史を紹介する核となるよう尽くしていきたいと考えております。